



## 学ぶは真似る

過日、龍鳳の法人全体研修がありました。法人内の職員同士は普段、交流する機会がないので、この会を通じて法人内で働いている仲間のことを知って交流を深めること、また、各事業所がどのような工夫をして活動を行っているのかを知る良い機会となっています。

こぶしからも数名の職員が参加して日々の利用者支援や業務のことについて自分の考えや、やってみた結果などの発表をしてくれました。

発表している職員の姿を見て「こんなにできることが増えたんだ」「こんな風に考え方が変わったんだ」と体感し、参加してくれた職員を始め、一緒に働いている職員へも改めて感謝の気持ちでいっぱいになり学ぶことの大切さを感じました。

学ぶと言えば人間の子どもは、赤ちゃんでさえ、相手と同じ行為を繰り返し真似することで、さまざまなことを学んでいくそうです。

また、相手の行為が持つその意図や、その物の意味を分かち合おうとする心の動きもあるそうです。親が赤ちゃんに向かってにつこり笑いかけると、赤ちゃんもそれを繰り返し、そのやり取りを繰り返す中で赤ちゃんは親の真似をするようになるとともに、次第に親を安全基地として認識し、親と共に新たな経験・学習をしていきます。

その安全基地を基盤としながら、自分と物・自分と他者との関係へとひろがり、他者の真似を通じて新しい経験・学習・動作の獲得をしていくのだそうです。

わたくしごとですが、師事している先生や上司の真似ごとをもう何年も続けています。よくよく見聞きして、自分でも想像しながら真似してやってみると「はあ～そうだったのか」「あの時こう言っていたのは、こういうことだったのか！」と新たな発見や体験をすることが多くあります。

「真似をする」ということは新たな発見や体験からの学びだけでなく、自分自身の想像力を働かせ、考えも整理されるので、なかなかおもしろいものです。

法人全体研修での職員の「変わった」「できるようになった」姿は、誰かや何かの真似をし、自分のものとして活用できるよう行動の繰り返しをして、できることにひろがりを持たせた結果なのかもしれません。

自分のことはもちろんのこと、利用者さん自身の出来ることにひろがりを持たせるためにも、「真似する力」に着目して支援していきたいものです。

サービス管理責任者 坂口 麻衣子

## 施設環境課の仕事

暑さもひと段落し、皆さまどうお過ごしでしょうか。収穫の秋と言う事もあり、楽しみな季節がやってきました。

施設環境課では、主に施設内の老朽化した個所の修繕、破損、壊れた物の迅速な修理などを主な仕事としております。施設開所から 10 年以上も経つとなると、様々な箇所が老朽化し、思いもよらない箇所が壊れたりします。その都度、ネットなどから修繕の方法を調べ、なるべく自分で対応するようにしています。今後もさらなる営繕技術の向上が必要となるので、日々これ精進していきたいものです。

施設環境課 小堀 志郎

## 人は誰でも

### 認められたい

### 褒められたい

施設長 苅部 一夫



日帰り旅行で、中華街へ行きました。

秋桜（コスモス）秋刀魚（サンマ）鰻（カジカ）。いずれも「秋」という字のついた季節です。秋分の日を過ぎて暦通り暑さ過ぎ、過ごしやす季節になりました。

さて、障害者支援施設でまたも障害者が職員から暴行を受けるという悲惨な事件が起きてしまいました。このような事件が繰り返されたことに、同じ職業人として非常に残念でしかたがありません。

虐待事件の報道がある度に「障害者施設では、人権が守られていない」というイメージが上塗りされてしまいそうで、悲しい気持ちを通り越し、危機感さえ覚えます。

もちろん、大多数の職員さんは真面目で人情に厚く、人のために役に立つことを本望に思っている職業者選んだはずで、常に利用者者を気遣い、優しい言葉をかけ、笑顔で向き合い、人のために役に立ちたいと、自信をもって今の仕事をしていることでしょう。そのことは、障害の有無や職種に関係なく、人として当然のことだからです。

つまり、私たちの社会は、基本的に全てが「善意」を前提に成り立っているものだと思います。そして誰もが、「安心」で「安全」な「平和」であることを願っているはずなのです。障害者支援の根幹となることは、互いの「信頼感」であると言っても過言ではありません。法人の理念にも「心やすらぐ家」という言葉があります。「やすらぐ」は、正に「安心」と「信頼」に裏打ちされなければあり得ない状態です。

改めて、龍鳳で働く職員は決まっていた事件を起こさないと強い決意をもったところ。改めて、龍鳳で働く職員は決まっていた事件を起こさないと強い決意をもったところ。

言ってみれば、私は性善説論者だと思います。それは、人は誰でも「認められたい」「褒められたい」「できるようになりたい」という本来的な願いをもっており、それが満たされたときに幸福を感じ、生きているというエネルギーが発露します。しかし、それが満たされないときに「不安」や「恐怖」「孤独」を感じ、ときに病的状態に陥る生き物だからです。このことを私は「原理原則」と考えています。このような考えは、教壇に立っていた頃を感じ始め、やがて後の人生において確信となっていきました。学校教育も障害者支援も同じだと思いますし、子供をみても龍鳳の利用者・職員をみても同じです。

冒頭の悲しい事件を起こした人も、本来的な願いが満たされていないことが理由なのかもしれません。

「認められたい」「褒められたい」という願いは、核の脅威を煽る国のリーダーたちも、同じなのではないでしょうか。本当は、どのリーダーも「自分の国を認めてほしい」「対等に世界の中で生きていきたい」と思っているはずなのです。脅しても、圧力をかけても人は簡単に言うことをききません。むしろ反発、復讐の連鎖が残るだけです。唯一の方法があるなら、互いの違いを認め、相手の存在を認めあうことだと思います。誰もが「認められたい」と思っているのですから。



## 日帰り旅行 第三班 ～中華街～



## 11月活動予定



日	月	火	水	木	金	土
			1 クラブ 開所日	2 開所日	3 開所日	4
5	6 開所日	7 開所日	8 クラブ 開所日	9 開所日	10 開所日	11
12	13 開所日	14 開所日	15 クラブ 開所日	16 開所日	17 開所日	18
19	20 開所日	21 開所日	22 クラブ 開所日	23 開所日	24 開所日	25
26 誕生日会(施) 開所日	27 開所日	28 開所日	29 クラブ 開所日	30 開所日		



### ～こぶしまつり開催のお知らせ～



平成 29 年 10 月 21 日(土) 10 : 30～15 : 00  
 今年もこぶしまつりを開催いたします。※雨天決行  
 喫茶店・模擬店・その他各種催しを企画しております。  
 是非お越しください。

### ～差し入れを頂きました～

9 月 25 日(月)、ライフパートナーこぶし  
 保護者会様よりおはぎの差し入れを頂  
 きました。  
 ありがとうございました。



## 毎日に笑顔を

こぶしに入職して1年半が経過し、今年の4月からは後輩たちに教える立場となりました。こぶしに入職してから今までの時間があっという間に過ぎてゆき、1年がとても早く感じました。入職した1年半前は学生から社会人としてはいったため、右も左も分からない状態であり、不安も募る中、支援においてはただひたすら先輩職員たちの真似をしていました。ですが、時間が経つにつれ、その分、失敗から学んだ事や先輩からアドバイスを頂いたりして支援の考え方が広がり、今では自分で考えて行動できるようになったため、自分自身が成長していく実感をもつことができました。新人の間は先輩から教わり、相談にも乗ってもらっていましたが、これからは自分が先輩として今まで教わってきたことを振り返るように後輩たちをサポートしながら共により良い支援を提供していけたらいいなと思っています。

私がこの仕事に就いてから嬉しく感じるのは、一年前と違い、利用者様の今までできなかったことが支援者の支援や、共に頑張ってきたその利用者様自身の努力によって出来るようになった時です。また、利用者様から直接感謝の言葉をもらうことはあまりないのですが、毎日楽しそうに笑顔を見せて頂けていることで今日までこの仕事をしてきてよかったと感じられます。これからも先輩、後輩職員と共に協力し、毎日が笑顔であられるよう頑張って支援していきたいと思ひます。